



エコキャップ運動のスヌメ

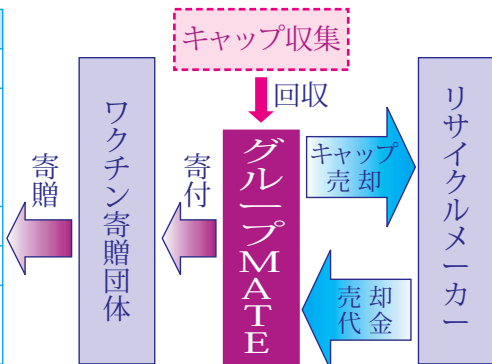
～捨てるのマテ～

エプロン通信員 宮里 希見子

宜野湾市のゴミの分別でペットボトルのキャップは燃えるゴミ。週二回の収集で一体どれだけのキャップが集まるのでしょうか。仮に1kg(約四百個)のキャップを燃やすと三、一五〇gものCO₂が発生するそうです。実はそのキャップをメーカーに売却し、売上代金を寄付しているグループがあります。彼らは「グループMATE」。横浜に本拠をおいているペットボトルキャップ収集ボランティア団体です。今までに全国から集められた数は、四、七〇〇万個を超えました。それらを四百個につき十円で東京の木工所に売却し、その代金は「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付されます。そして、はしかなどのワクチン費用として主に発展途上国に届けられます。

県内でもダイビングショップに収集所を設けており、スタッフや観光客の手によってレレーのように運んでいるのです。その他、大手スーパーや車展示場、小学校などでも収集を始めるなどエコキャップ運動のすそのは広がっています。あまりペットボトルは購入しない我が家でも十四個のキャップが集まり

ワクチン名	1人分
ポリオ(小児マヒ)	約20円
MMR(はしか、おたふく風邪、三日はしか)	約114円
BCG	約7円
はしか	約95円
DPT(ジフテリア、百日咳、破傷風)	約9円



- エコキャップ収集所：LALLダイビングクラブ(新都心) ☎869-6963
パラダイスクラブ(那覇市前島) ☎869-7797
- グループMATE：☎045-941-7978
ホームページ：<http://ecocapmate.com/>

ました。洗浄し受付しているパーラーに託すつもりです。ぜひあなたもエコキャップメイの一員になりましょう！

そして、宜野湾市でも資源ゴミとしての収集を検討していただきたいと、一市民として願います。

茶 ぐわーゆんたく

56

「生命を守る会」の闘い

戦後の宜野湾市が「ドーナツ型の街」という言葉で形容されるとおり、市では中央部に位置する普天間飛行場を取り囲むように街が形成されてきました。そのため、飛行場は戦後一貫して市の発展の大きな障壁であるだけでなく、市民に与える基地被害も跡を絶ちませんでした。「復帰」してもなおその事情に変わりはなく、そればかりか、核武装が可能なP-3B対潜哨戒機の移駐計画が明るみになるなど、むしろ、普天間飛行場の基地機能はより一層の強化が方向付けられました。

以前から市内の軍用地の解放を要求していた市当局や市議会は、P-3機の移駐問題に端を発するかたちで全市民的な「宜野湾市生命を守る会」の結成を呼びかけました。一九七三(昭和四十八)年十二月には「P-3機飛来反対市民総決起大会」の開催が実現し、



1973(昭和48)年12月 P3機飛来反対市民総決起大会(大山小学校運動場)

「宜野湾市史」人の問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三二四四三〇

大会では普天間飛行場の即時解放、P-3機移駐反対、軍事飛行場拡張工事反対の三ローガンが掲げられました。

「復帰」してもなお基地機能が強化されるなか、「生命を守る会」の闘いは、「復帰」とは何かを私達に問うているように思えます。